

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

建学の精神に則り、未来を生き抜くことができる資質・能力を培い、社会に貢献する自立した女性を育てる学校をめざす。本校では、「社会に貢献する自立した女性」を育成するために必要な資質・能力を、学力・協働性・主体性の3つと考える。この3つの資質・能力を構成する、『学ぶ力、考える力、解く力、認め合う力、行動する力 (KINRAN PRIDE)』を全ての教育活動を通じて育成する。

(1) 学力

- ① 学ぶ力=生涯にわたり絶えず学び続けようとする意欲・姿勢
- ② 考える力=習得した基礎的・基本的な知識・技能を、社会における様々な場面で活用できる力
- ③ 解く力=習得した知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果を獲得するとともに、その成果を発信する力

(2) 協働性

認め合う力=「ありのままの自分」を認め、他者の多様な個性や価値観、文化を理解し互いを尊重し人間関係をつくる力

(3) 主体性

行動する力=自らの役割を把握し、その役割を果たすため、自リツ(自立・自律)的に行動する力

2 中期的目標

(1) 学校教育デザインの確立

① 学校教育デザインの具体化

全ての教職員は、「これからの社会に貢献する自立した女性」を育成する学校教育デザイン(めざす学校像・生徒に育みたい力)を具体化、共有化し、生徒・保護者に発信するとともに、日々の教育活動を見直し、生徒指導、学習指導を改善する。

② 「5つの力」の育成を実現する魅力的な学校づくりの推進

ア) グローバル人材の育成と近年強化していた英語教育の取り組みを活かした国際理解(GS)コースを設置する。

イ) 学校教育デザイン(めざす学校像・生徒に育みたい力)に向けて現コースの成果と課題を検証し、コースのカリキュラム改編を含めコースの再編を検討する。

ウ) 中学部においても、その成果と課題を検証し、円滑な中高接続ができるように、カリキュラム改編を含め中学部の充実を図る。

(2) 学力の向上

① 学力向上策(基礎学力・学習習慣定着策)の実施

ア) 教職員は自ら「学ぶこと」の重要性を理解し、それに基づいて教育活動を行う。

イ) 多様な生き方を自分で判断し選択できる女性を育成するために、教職員は生徒に対して、「学ぶこと」の意味を理解させ、「学ぶ意欲」を喚起することで「自己効力感」を持たせる。あわせて、授業規律の確立、ICTの活用などで家庭学習の定着を図ることで、基礎学力の充実を図る。

② 授業力の向上

教職員の授業力向上を図ることで、すべての教科において、アクティブ・ラーニングを推進し、基礎的な知識や技能を活用し、論理的に考え、まとめ、発表する力を育成する。

③ 「総合的な探究の時間」のプログラムの確立

「総合的な探究の時間」(高校)・「総合的な学習の時間」(中学)のプログラムを確立するなかで、多様な人々・文化の出会いを通じて、コミュニケーション力、課題設定・課題解決能力を育成する。

(3) 進学実績の向上

① 3年間・6年間を見通した進路指導体制の確立

ア) 進路指導部は、各学年・教務部と連携し実力テストや模試等の客観的なデータを活用し、高校3年間を見通した進路指導体制を確立し、これからの社会で自立して生きていくために必要とされる、進路意識の醸成としっかりとした学力を育成する。

イ) 中学部は進路指導部と連携し、中高連携を図り、高校進学を含めた6年間を進路意識の醸成としっかりとした学力を育成する。

② キャリア教育の推進

これからの社会に貢献する自立した女性を育成するため、各コースは、金蘭会の強みである教育的リソース(大学、保育園、病院等)を活用したキャリアプログラムを確立し、社会で求められる女性の生き方、働き方を考える、3年間・6年間を見通したキャリア教育プログラムを策定する。

③ 千里金蘭大学・金蘭会保育園との連携

千里金蘭大学とのより効果的で密接な連携により、内部進学者を増加させる。

(4) 安全安心な学校づくりと自立・自律する力の育成

① 人間関係づくりの充実

各学年が、HRや道徳、学校行事等を通じて、生徒一人ひとりが多様な生き方を自分で判断し選択できる女性に必要とされる、自分のすばらしさを認め他者を尊重し受け入れる豊かな心を育み、多様性を尊重し共生する力、自立・自律する力を育成する。

② 生徒の主体性の育成

生徒指導部は、生徒指導方針や学校行事の目的・意義を再確認し、多様な生き方を自分で判断し選択できる女性に必要とされる主体的に考え行動する力を育成する。

③ 支援が必要とされる生徒への対応

ア) すべての教職員は、「支援」という観点で日々の教育活動を見直す。

イ) 生徒支援委員会は各学年と連携して、発達特性や不登校傾向生徒への支援策を検討し実施する。あわせて、スクールカウンセラーだけでなく、外部の医療機関等との連携も強化する。

(5) 魅力的な学校づくりと機能的な学校運営の確立

① 募集広報活動の強化と体制の充実

本校がめざす新たな教育の魅力を全面的にアピールするため、保護者や受験希望者、中学校や塾等のニーズを把握し、評価と分析を徹底し効果的で効果的な募集広報戦略を立てる。

② PDCAサイクルの徹底

各分掌・学年は、具体的なデータや根拠に基づいた総括や評価を徹底し、課題と方針を明確にするPDCAサイクルを確立する。

③ 組織運営体制の充実と教師力の向上

機能的な組織運営を図るため、職務の役割と責任を自覚する。計画的な人事計画のもと、適切な教員配置を実現する。また、外部教育機関等との連携を深め、教職員のスキルアップを図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学校教育デザインの確立	I 学校教育デザインの具体化	a. すべての教職員は、教科・学年・分掌において、「5つの力」(KINRAN PRIDE)の育成の実現に向けて、それぞれが具体的に「どんな力をつけてもらいたい」かを明確し、指導方針・取り組みを見直すとともに、自己研鑽に努め、教師力の向上に努める。	●アンケート「満足度」 (保護者)95% [92%(20)] (生徒)95% [91%(20)] (教員)70% [59%(20)]	
	II 「5つの力」の育成を実現する魅力的な学校づくりの推進	a. すべてのコースは、それぞれの特色を明確にしたキャリアプログラムを企画し、長期休暇期間を利用し体験週間を実施する。 b. すべてのコースは、カリキュラムの課題を明確にし、早期に学校設定教科・科目等の見直しを図る。 c. 中学部は、生徒の多様化に対応し、6年間を見通した、学習指導や生徒指導、キャリア教育を実施する。	●アンケート「特色ある教育活動」(保護者)90% [84%(20)] (生徒)85% [78%(20)] (教員)70% [52%(20)] ●アンケート「教育方針の明示」(保護者)80%[76%(20)] ●キャリアプログラム体験週間の実施	
2 学力の向上	I 学力向上策(基礎学力・学習習慣定着策)の実施	a. すべての教職員は協力して、教務部を中心に、授業規律の徹底を図り、家庭学習の指導を強化する。また、積極的に授業を改善し、基礎・基本の定着と主体的に学ぶ意欲を育てる。 b. 教務部が核となって、すべての教科において、主体的な授業(「参加体験型」・「考えをまとめ発表」等)へ改善する。 c. 教務部は、リメディアル授業の成果と課題を明確化し、全教員で共有化する。 d. 教務部は、進路指導部、GS コースと連携して学校設定科目『GCED』、『AW』、『キャリア』の成果と課題を明確化し、全教員で共有化する。 e. 各教科・科目は、生徒、学力実態の推移を把握し、教科指導の課題を明確にして授業改善を図る。 f. 各学年は、教務部、進路部、教科と連携を図り、学力実態の推移を把握することで、学力向上策を実施する。 g. 教務部は、各分掌、学年と連携し学校行事の必要性を精査し、授業日数を確保する。12月中に来年度の行事予定案を確定する。 h. 教務部は、オンライン授業の実施形態を確立する。また、各教科・科目は、コンテンツの充実を図る。	I ●アンケート「授業満足度」 (保護者)70% [59%(20)] (生徒)75% [68%(20)] ●アンケート「授業改善」 (保護者)80% [73%(20)] (生徒)70% [64%(20)] (教員)90% [85%(20)] ●アンケート「参加体験型」 (生徒)60% [45%(20)] (教員)80% [82%(20)] ●アンケート「考えをまとめ発表」 (生徒)75% [68%(20)] (教員)70% [63%(20)] ●アンケート「習熟度別指導」 (生徒)75% [66%(20)] (教員)50% [26%(20)] ●アンケート「家庭学習定着」 (保護者)80% [73%(20)] (生徒)70% [62%(20)] (教員)70% [63%(20)]	
	II 授業力の向上	a. 教務部が中心に、研修を計画的に実施する。特に、先進校訪問や実践者による模擬授業など、実践的研修を実施する。 b. ICTの活用をキーワードにした授業改善の推進を図るための相互の公開授業を継続的に実施する。(公開授業2回/年) c. 授業アンケート(7月・12月)、自己診断アンケート(12月)のデータに基づいて、総括を行い、具体的な改善計画を作成する。	II ●授業公開と研究協議会の開催 ●外部講師による研修	
	III 「総合的な探究の時間」のプログラムの確立	a. 高校においては、高1を中心に、探究プロジェクトチームを設置し、中学部での成果や先進校の取り組みを参考に、キャリア教育の観点を含めてプログラム化する。 b. 中学においては、道徳などの成果を取り入れ、国際交流、伝統文化、食育の分野で、キャリア教育の観点を含め、プログラム化する。 c. 課題解決学習の実施やコース別学習の充実に向けて、系列校や卒業生(同窓会)を積極的に活用する。	III ●アンケート「参加体験型」 (生徒)60% [45%(20)] (教員)80% [82%(20)] ●アンケート「考えをまとめ発表」 (生徒)75% [68%(20)] (教員)70% [63%(20)] ●アンケート「キャリア教育」 (保護者)85% [78%(20)] (生徒)85% [78%(20)] (教員)65% [56%(20)] ●アンケート「生き方・将来を考える」(保護者)85% [76%(20)] (生徒)70% [62%(20)] (教員)80% [74%(20)]	

<p>3 進学実績の向上</p>	<p>I 3年間（6年間）を見通した進路指導体制の確立</p>	<p>a. すべての教職員は協力して、進路指導部を中心に、授業や総合的な探究の時間、学校行事、部活動を通じて3年間（6年間）で培った、学力と人間力を活かし、AO等の推薦や一般など様々な入試にチャレンジする生徒を育成する。</p> <p>b. 進路指導部は、関係分掌、学年、教科等が連携を図り、卒業までの3年間（6年間）を見通した指導計画を作成する。</p> <p>c. 進路指導部は、指導計画に基づいて、進路HR(月1回)、練成授業(講習)や勉強マラソン(年3回)等の進路行事、進路面談を実施する。</p> <p>d. 進路指導部は、教務部・教科と連携して、「練成授業(講習)」、「キャリア」、リメディアル授業の成果を受けて、主体的に学習できるように、授業改善を図る。</p>	<p>I ●アンケート「進路指導(連携)」 (保護者)75%[68%(20)] (生徒)80% [74%(20)] (教員)75%[70%(20)]</p> <p>●アンケート「進路指導(取り組み)」(保護者)90% [85%(20)] (生徒)80% [71%(20)] (教員)75%[70%(20)]</p>
	<p>II キャリア教育の推進</p>	<p>a. 進路指導部は、3年間(6年間)を見通し、適性や職業について考えるキャリア学習を系統的に実施する。総合的な探究の時間と連携して行う。</p> <p>b. 各コースは、大学、幼稚園・保育園、病院等外部と積極的に連携し、長期休業中を利用し、コース独自のキャリアプログラムを実施する。</p> <p>c. 中学部については、HRや道徳の時間を活用し、働くことや職業・進学を考えるキャリア学習を系統的に実施する。</p> <p>d. 高校生との交流を通じて、高校の各コースの特徴を伝え、高校での円滑なコース選択(内部進学)を促す。</p> <p>e. 保護者対象の進路説明会(学期1回)を実施し、保護者の進路意識の醸成に努める。進学・就職・公務員など各進路の情報、入試制度や進学費用等についての理解も深める。</p>	<p>II ●アンケート「キャリア教育」 (保護者)85% [78%(20)] (生徒)85% [78%(20)] (教員)65% [56%(20)]</p> <p>●アンケート「生き方・将来を考える」(保護者)85% [76%(20)] (生徒)70% [62%(20)] (教員)80% [74%(20)]</p> <p>●コース独自キャリアプログラムの実施</p> <p>●保護者対象の進路説明会(学期1回)実施</p>
	<p>III 千里金蘭大学・金蘭会保育園との連携</p>	<p>a. 大学への内部進学率20%以上をめざす。</p> <p>b. 各コースにおいて、高大連携を強め、出張授業や大学での体験授業・金蘭会保育園での実習を実施する。</p> <p>c. 特に看護・食物栄養・児童保育系の志望者について、高1より必修の説明会を実施する。</p> <p>d. キャリア教育を推進するうえで、生徒のロールモデルとして、OGや同窓会と積極的に連携する。</p>	<p>III ●アンケート「大学等との連携」 (保護者)70% [64%(20)] (生徒)60% [52%(20)] (教員)95% [89%(20)]</p> <p>●千里金蘭大学説明会実施回数</p> <p>●千里金蘭大学への内部進学者20%以上 [29名、19%(20)]</p>

<p>I 人間関係づくりの充実</p>	<p>a. すべての教職員は協力して、生活指導部を中心に、すべての教育活動を通じて、自尊感情と他者尊重の意識(多様性の理解)と、学校生活に主体的に参画する意識を培うことで、社会で自立(自律)して活躍できる人間力を育成する。</p> <p>b. 各学年は、HRだけでなく道徳(中学)や「総合的な探究の時間」、学校行事を活用し、学年の人間関係づくりの方針を明確にする。</p> <p>c. 保護者との連携を強め、人間関係上のトラブルやその他の問題を早期にキャッチし、解決に向け生活指導部や生徒支援委員会、いじめ対策委員会と連携する。</p> <p>d. SNS の関わる問題など、生活指導上の課題については外部機関との連携し、系統的に指導を行う。</p>	<p>I ●アンケート「人権教育」 (保護者)80% [74%(20)] (生徒)70% [64%(20)] (教員)65% [56%(20)]</p> <p>●アンケート「安心安全な環境」(保護者)80% [74%(20)] (生徒)80% [71%(20)] (教員)90% [85%(20)]</p>	
<p>II 生徒の主体性の育成</p>	<p>a. 生徒の多様化に対応して、生活指導方針について教職員間(学年・分掌)での共有化を図り、生徒の内面に迫る(人権教育の観点に立った)生徒指導を行う。</p> <p>b. 「体育祭」・「蘭祭」・「校内競技大会」の学校行事の目的・意義を確認し、実施形態や時期など、生徒自治会を中心に生徒主体の運営を実施する。</p>	<p>II ●アンケート「生徒指導方針」 (保護者)80%[75%(20)] (生徒)80% [73%(20)] (教員)70% [63%(20)]</p> <p>●アンケート「方針への共感」 (保護者)75% [66%(20)] (生徒)75% [66%(20)] (教員)90% [85%(20)]</p> <p>●アンケート「学校行事」 (保護者)90% [82%(20)] (生徒)80% [75%(20)] (教員)80% [74%(20)]</p> <p>●アンケート「生徒自治会活動」(保護者)75% [66%(20)] (生徒)75% [66%(20)] (教員)65% [59%(20)]</p>	
<p>III 支援が必要とされる生徒への対応</p>	<p>a. 各学年は、配慮・支援を要する生徒や課題のある生徒のリストアップを図り、学年会議で状況と情報を共有する。</p> <p>b. 必要に応じて、SCをはじめ専門家、外部機関(医療機関・福祉機関)や、出身中学など連携する。</p> <p>c. 生徒支援委員会は、支援を要する生徒に対する支援策を学年に提案する。また、校務連絡会や職員会議に報告全職員で情報と支援策の共有化を図る。</p> <p>d. 各学年は、障がいにより支援が必要な生徒に対して、生徒支援委員会と連携して、個別の教育支援計画を作成する。</p> <p>e. 生徒支援委員会は、学習支援策を充実させるため、オンライン授業の活用を含めた教務内規の検討を、教務部と進める。</p>	<p>III ●アンケート「いじめへの対応」(保護者)85% [78%(20)] (生徒)75% [70%(20)] (教員)85% [78%(20)]</p> <p>●アンケート「教育相談体制」 (保護者)85% [77%(20)] (生徒)65% [60%(20)] (教員)95% [89%(20)]</p>	

5 魅力的な学校づくりと機能的な学校運営の確立	I 募集広報活動の強化と体制の充実	a. すべての教職員は協力して、あらゆる教育活動において改善を進めることで、生徒の学力と人間力を育成することで「生まれ変わった金蘭会」を実現するとともに、募集広報部を中心に、その「生徒の姿」を地域、中学校等に発信する。 b. 募集広報活動を学校全体での取組みとする。募集広報部の動きや方針の「見える化」を図り、全教職員での共有化する。 c. 「生まれ変わった金蘭会」をわかりやすく伝えるため、広報イベントの改善、ホームページの充実、効果的な案内パンフレット、他のメディアの活用を図る。 d. 全教員による出前授業やイベント時の体験授業などのメニューを開発し、「生まれ変わった金蘭会」を広報する。	I ●中学校オープンスクール参加数 各回 50 組以上 ●中学校入試説明会参加数 各回 50 組以上 ●高校オープンスクール参加数 各回 100 組以上 ●高校入試説明会参加数 各回 100 組以上
	II PDCA サイクルの徹底	a. 各教職員は、授業アンケート(7月・12月実施予定)結果をもとに、具体的な改善点を明確にし、各期に「授業改善報告書」を提出する b. 各分掌・学年・教科は、自己診断アンケート結果を分析し客観的に年度総括と次年度の方針を設定する。 c. 有識者(千里金蘭大学より人選)を含めた、将来構想委員会を設置し、高大連携を強化するとともに、本校の将来像を検討する。	II ●学校運営協議会の実施 ●自己評価アンケート結果と学校運営協議会評価のホームページ公開
	III 組織運営体制の充実と教師力の向上	a. 各学年や他分掌の連携を強め、主任・分掌長がリーダーシップを発揮できる体制づくりを推進する。 b. 学識経験者や他校における実践者等の招くなど、効果的な研修を実施し、授業改善を図る。 c. 女性の自立に向けて、直面する教育課題に対応した実践的な研修を実施する d. 初任者や経験年数2～3年目の若手教員に対しては、外部研究団体の研修等を活用し教員育成を図る。	III ●教職員研修の実施 ●若手対象教職員研修の実施回数 ●教職員アンケート 「教員間連携」60%[48%(20)] 「会議運営」60% [52%(20)] 「計画的な研修」70% [63%(20)] 「若手教員の育成」50% [26%(20)] 「校外研修」60% [33%(20)]